【研究論文】

互いの考えを比べながら話し合う力を高める指導の在り方

―新学習指導要領の動向の中における本実践の位置づけ―

鎌倉　大和

Ⅰ　はじめに

平成 28 年の 11 月，信州大学国語教育学会第二十六回大会において，私の「話すこと・聞くこと」の実践を発表する機会をいただいた。そこでは，学習の過程やワークシート（思考ツール）の使用法などに対し，様々なご意見をいただき，私自身大変勉強になった。しかし同時に，この実践を生徒の姿を通し，また違った切り口から見返すことができないかと考えるようになった。その切り口の一つとして挙がったのが「新学習指導要領の動向の中における本実践の位置づけ」という切り口である。現行学習指導要領を基に行った本実践を新学習指導要領の動向を切り口にすることで，今後の実践に繋がるところ，いかせるところ，足りないところが，より明確に見えてくるのではないかと考えたからである。

新学習指導要領では,「資質・能力」,「カリキュラムマネージメント」,「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）の三つのキーワードが叫ばれ，全国の教育現場において議論や計画がなされている。そして，さらに「資質・能力」においては，三つの柱として,「知識・技能」（何を知っているのか，何ができるのか),「思考力・判断力・表現力」（知っていること・できることをどう使うか),「学びに向かう力，人間性」（どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか）が挙げられ，授業の創意工夫や教科書等の改善を引き出していくことが重要とされている。

そこで，本稿では，新学習指導要領の「資質・能力」における三つの柱に本実践の生徒の姿を当てはめながら，成果と課題に迫っていきたい。

Ⅱ　本実践の実際

1　本実践に繋がる経緯

1 年次の「話し合って考えを広げよう」では,「もっとも優れた情報手

段はなにか」という議題でパネルディスカッションを行った。その中でK生は，優れた情報手段として「新聞」を選択し，同じ立場の友から聞き取った「新聞」の優れた点や，パネルディスカッションで聞き取った違う立場の友の考えをワークシートにまとめ，自分の考えと比較することで，自分とは違う情報のよさに気付いた。そして，自分の考えを再検討し，多様な視点からまとめることができた。このことから，自分と同じ立場や違う立場の友の考えをワークシートにまとめ，比較し，それらを踏まえて自分の考えを再検討する活動を行うことは，互いの考えを比べながら話し合う力を高めることにつながる可能性が見えてきた。一方，振り返りにおいて「相手の人がよいと考える根拠をもっと知りたかった」という感想が出されたことから，自分や相手の考えの基となった「根拠」とそこから導き出した「理由」を比較することができる手だてを追究する必要性が見えてきた。そこで，２年次に「ミニ国会をひらこう」の学習を構想した。そこでは，「ディベカッション」を行い，聞き取った相手の考えを，ワークシートを用いて，「根拠」・「理由」・「自分の考え」の三観点で分類しながら，自分と相手の考えを比較し，「自分の考え」を再検討する活動を位置付けた。その結果，固定した形態における「話す・聞く活動」を行う点では成果が残せたものの，互いの考えのよさを主張することにとどまり，より細かく比べ，整理し直し，見返すまでに至らなかった。そこで，３年次（本実践）は，修学旅行の「お勧めスポット」を決め出していくために，「根拠」と「理由」を基にした「自分の考え」を，友の考えを参考に整理し，見返す活動を位置付けた。そして，そのための手だてとして，自分と友の考えを比較検討するための「見返すための観点」を設定し，本実践の単元を計画した。

２　本単元名・学年

「僕も私もトラベルプランナー」・３年

３　単元の目標（現学習指導要領）

(1) 国語への関心・意欲・態度

「お勧めスポット」を提案することに関心をもち，積極的に友と意見交換を行おうとする。

(2) **話すこと・聞くこと**

① グループで決めた「お勧めスポット」をプレゼンテーションとしてまとめ,相手に分かりやすい言葉を選んで話すことや適切な言葉遣いで話すことなど，話し方を工夫して「お勧めスポット」を紹介することができる。

② 「お勧めスポット」を「根拠」や「理由」を基にまとめることができる。

③ 自分と友の考えの共通点や相違点を意見交換で明確にして「決め出す観点」を決めることができる。

④ 「決め出す観点」を基に「自分の考え」と友の考えを整理し，ワークシートにまとめることができる。

⑤ 自分や友の考えをいくつかの「決め出す観点」からとらえたり，生かし合ったりしながら新たな提案をまとめることができる。(本時)

4　単元展開

本実践の単元展開は，以下のように計画した。

・第１次：テーマを決め，単元の学習問題を設定する。(1)
・第２次：中学２年生へのインタビューを基にテーマに対しての「自分の考え」をもつ。(1)
・第３次：友との意見交換から「自分の考え」と友の考えを整理するための「決め出す観点」導き出す。(2)
・第４次：友の考えを聞き，観点を基に意見交換を行い，自分と友の考えを整理する。(1)
・第５次：「決め出す観点」を基に意見交換を行い，「自分の考え」と友の考えを整理し直して，自分の考えを見返す。(1)(本時)
・第６次：中学２年生にプレゼンテーションをする。(3)

5　授業の実際と考察

(1) 友と「決め出す観点」を決め出し，「決め出す観点」を基に，友の考えと「自分の考え」を整理することができたＫ生（第３，４，５校時）

【授業の実際】

第３時，自分の修学旅行の経験を「根拠」に「理由」を導き出し，「お勧めスポット」を考え出したＫ生（**図４1**）は，より説得力のあ

る「お勧めスポット」を厳選するために，自分とは異なる「お勧めスポット」を提案するO生やM生と意見交換を行った。そこでK生は，O生とM生の挙げた「お勧めスポット」の「根拠」・「理由」を聞き（図2）（図3），聞き取ったことをワークシートに記入した（図4 2）。しかし，意見交換では，三か所に厳選することができず，その感想を聞き取りパレットに記入した（図4 3）。

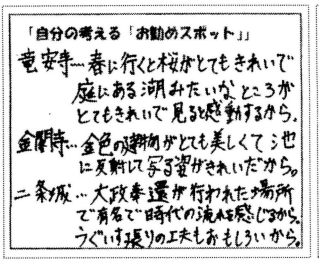

図2　O生の考えた「お勧めスポット」

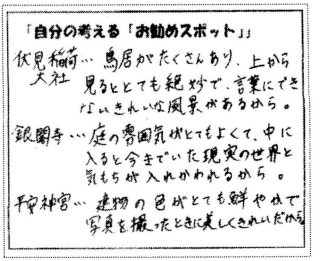

図3　M生の考えた「お勧めスポット」

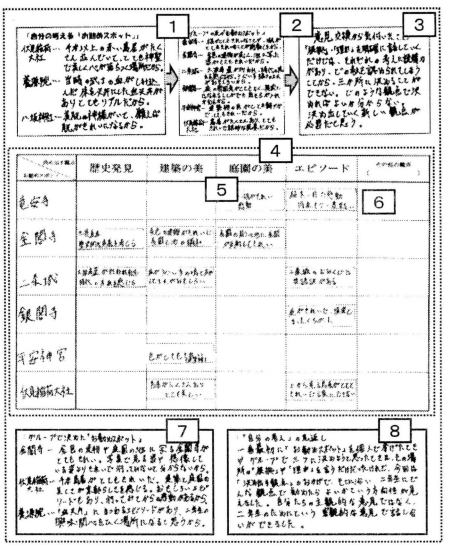

図4　K生のワークシート

第4時，前時，K生のグループのように「お勧めスポット」を三か所に決めることができなかったグループが多かったことから，教師は，どのように「お勧めスポット」を決めたらよいか，クラス全員で話し合う時間を設けた。そして生徒は，以下のように意見を出し合った。

T　1：もう一度，自分や友の「根拠」や「理由」の部分を見てください。どんなことが中心に挙げられているでしょうか。

H生1：僕もIさんも「二条城」を「お勧めスポット」にして，大政奉還が行われたことを挙げました。また，僕は，庭が美しいことを挙げ，「東福寺」を「お勧めスポット」にしましたが，Iさんは，僕と同じように庭の美しさを挙げながら，「竜安寺」を「お勧めスポット」にしていました。このようなことから「歴史」にかかわることや「庭園」にかかわることが中心になっていると思いました。

M生2：「二条城」のうぐいす張りや「伏見稲荷大社」の千本鳥居などは「建物」にかかわることが中心に挙げられていると思います。

S生３：「『北野天満宮』の大黒天の口に石をのせると金運がアップする」のように，その場所にかかわる「エピソード」のようなことも挙げられると思います。

その後，Ｋ生は，友と話し合いを「決め出す観点」として，「歴史発見」・「建築の美」・「庭園の美」・「エピソード」・「その他の観点」を決め出し，「自己評価カード」へ感想を記入した（**図５**）。

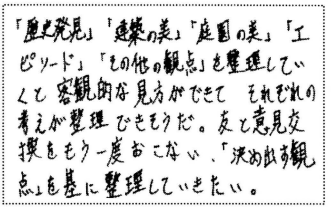
「歴史発見」「建築の美」「庭園の美」「エピソード」「その他の観点」を整理していくと客観的な見方ができて それぞれの考えが整理できもうだ。友と意見交換をもう一度おこない、「決め出す観点」を基に整理していきたい。

図５　Ｋ生の「自己評価カード」１

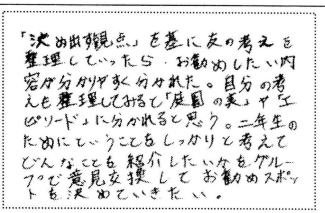
「決め出す観点」を基に友の考えを整理していったら お勧めしたい内容が分かりやすく分かれた。自分の考えも整理しておると「庭園の美」や「エピソード」に分かれると思う。二年生のためにどうことをしっかりと考えてどんなことを紹介したいかをグループで意見交換して お勧めスポットを決めていきたい。

図６　Ｋ生の「自己評価カード」２

第５時，Ｋ生は「決め出す観点」を基に，再びＯ生やＭ生と以下のように意見交換を行った。

Ｏ生４：僕は，「竜安寺」を「お勧めスポット」に入れました。それは，「竜安寺」が春に行くと桜がとてもきれいで，庭にある湖みたいなところがとてもきれいで見ると感動するからです。

Ｋ生５：〔付箋に「春の桜・湖がきれい。感動」（**図４**[5]）を記入。〕Ｏ君の考えは，庭にかかわることだから「庭園の美」になりますね。

Ｍ生６：そうですよね。私もＯ君の考えを，そう聞き取りました。

Ｏ生７：庭がとてもきれいなんです。僕は，桜を見て，一目で感動してしまいました。
将来，もう一度ここに来たいと思いました。

Ｋ生８：〔付箋に「桜を一目で感動，将来もう一度来たい」（**図４**[6]）と記入。〕なるほど。それほど，庭園の桜はきれいなのですね。

その後，Ｋ生は，意見交換を基に友の考えを整理し（**図４**[4]），「自己評価カード」に感想を記入した（**図６**）。

【授業の考察】

第３時，Ｏ生やＭ生と意見交換を行ったＫ生は，自分とは違う「お勧めスポット」を考えた友と考えを出し合えば，より説得力のある「お勧めスポット」を三か所決め出すことができると考えたことが伺える。しかし，それぞれ選んだ「根拠」と「理由」がはっきりしているため，三か所に厳選することができなかったＫ生は，新たな観点が必要であると考えたのだと推察できる（**図４**[3]）。

第４時，Ｋ生は，友の「歴史」や「庭園」を中心にして「お勧めス

ポット」を決め出した意見（H生１），「建築物」を中心にして「お勧めスポット」を決め出した意見（M生２），「エピソード」を中心にして「お勧めスポット」を決め出した意見（S生３）などから，それぞれの考えが独自の観点に沿って挙げられていることに着目することができたと考えられる（**図５**）。そして，新たな観点として，「歴史発見」・「建築の美」・「庭園の美」・「エピソード」・「その他の観点」を「決め出す観点」として決め出すことで，それぞれの考えが客観的に整理できると考え，これらの観点を基に，もう一度整理していきたいと考えたことが伺える（**図５**）。

第５時，K生は，O生やM生と意見交換を行い，聞き取った友の考え（O生４）を付箋に書き（K生５，８），その付箋の内容を友と確かめながら（K生５，M生６，O生７）「決め出す観点」に当てはめ，ワークシートに貼付したことから（**図４**$\boxed{4}$），友の考えを整理することができたことが伺える（**図４**）。そして，その後，K生は，「自己評価カード」に，友のお勧めしたい内容を分かりやすく整理することができたことや，「自分の考え」が，どの「決め出す観点」に沿った考えになっているのかを振り返ることができたことから（**図６**），「決め出す観点」を決め出し，「決め出す観点」を基に，友の考えと「自分の考え」を整理することは有効であったと考えられる。

(2) 二年生が納得できる「お勧めスポット」を決め出すために，「決め出す観点」を基に友と意見交換を行い，友の考えと「自分の考え」を整理し直し「お勧めスポット」を見返すことができたK生（本時）

【授業の実際】

本時，K生は，ワークシートを用いて，「決め出す観点」を基に，O生やM生と以下のように意見交換を行った。

O生 9：二年生に提案するのだから，二年生が興味を示してくれる選び方がよいと思います。例えば，「美」を回るなんてどうですか。「美」は，実際に回らないと分からないですから，行ってみたいと思うのではないですか。 K生10：確かに，「美」は説明しただけでは分からないですね。「美」で選んでいくと，「決め出す観点」の「建築の美」や「庭園の美」に当てはまる「お勧めスポット」がよいですね。 〔ワークシートの「建築の美」や「庭園の美」を丸で囲む〕

M生11：実際に行ってみての提案なので，「エピソード」もよいと思います。実際に私たちが現地に行って感じたことが多いので，二年生も興味がもてるのではないでしょうか。

K生12：提案ですから，二年生が知らないことで，実際に体験できたり，そこで知ったりすることがよいですね。「建築の美」や「庭園の美」，そして「エピソード」に当てはまる「お勧めスポット」を選びましょう。〔ワークシートの「エピソード」を丸で囲む〕

O生13：「美」で選んでいくと「金閣寺」が「建築の美」と「庭園の美」に当てはまるのでよいのではないでしょうか。

M生14：「エピソード」で見ていくと，鳥居のきれいさが多く挙げられていて，そのことを二年生に感じてもらいたいから「伏見稲荷大社」がよいと思います。

K生15：「金閣寺」はふさわしいですね。「伏見稲荷大社」だと，「建築の美」や「庭園の美」にも付箋があるので，「お勧めスポット」になりますね。〔「金閣寺」と「伏見稲荷大社」を丸で囲む〕

O生16：あとひとつはどうしますか。

K生17：僕の考えた「お勧めスポット」として「養源院」を挙げました。付箋は少ないのですが，二年生が興味を示せる場所として考えると「エピソード」に当てはまる場所として挙げれば，おもしろいと思います。

O生18：〔「養源院」の「エピソード」の欄を見て〕おもしろそうですね。「養源院」を入れてみましょう。

そして，K生は，O生，M生とグループの「お勧めスポット」として「金閣寺」・「伏見稲荷神社」・「養源院」を決め出し，その理由をワークシートに記入した（**図4** 7）。その後教師が，第1時に挙げた「自分の考え」（**図4** 1）と本時の「自分の考え」（**図4** 5）を比べ，見返すように促すと，K生は，見返しをワークシートに記入した（**図4** 8）。

【授業の考察】

K生は，二年生が興味を示すために，「美」に着目して選び出そうというO生の意見（O生9）から，実際に行ってみないと分からない感動があることに気付き，二年生という相手意識を重視した「建築の美」や「庭園の美」から選んでいく必要性を感じたことが伺える（K生10）。そして，ワークシートの「建築の美」や「庭園の美」の部分を丸で囲んだことから，決め出す見通しをもったのだと考えられる（**図7** 1）。さらに，相手意識をもったM生の「エピソード」に着目した考え（M生11）に対しても，「建築の美」や「庭園の美」と合わせながら選ぶことができると気付き（K生12），ワークシートの「エピソード」の部分に印をつけたことから，決め出す見通しをもったことが伺える（**図**

7 [2])。そして，K生は，O生の考え（O生 13）やM生の考え（M生 14）を参考にし，「決め出す観点」に沿った選び方（図7 [3]，[4]）ができると気付き（K生 15），「金閣寺」と「伏見稲荷大社」を「お勧めスポット」として選び，印を付けたのだと考察できる（図7 [5]）。さらに，K生は，「お勧めスポット」を紹介する二年生のことを考え，「決め出す観点」の「エピソード」に沿って「養源院」を提案（K生 17）し，賛同するO生の意見を聞きながら（O生 18），ワークシートの「養源院」に印を付けたと考えることができ（図7 [6]），グループの「お勧めスポット」として，「金閣寺」・「伏見稲荷大社」・「養源院」を決め出すことができた（図7 [7]）。その後，「自分の考え」と友の考えを整理し直し「お勧めスポット」を見返す場面では，「お勧めスポット」のよい部分を挙げるだけだった「自分の考え」（図7 [1]）が，「決め出す観点」を基にして「二年生にどのような観点で勧めたらよいか」という方向性で決め出すことができた。（図7 [8]）。これは，「二年生という相手意識」に視点を置き，「決め出す観点」を基に「お勧めスポット」を決め出しながら「自分の考え」を見返すこ

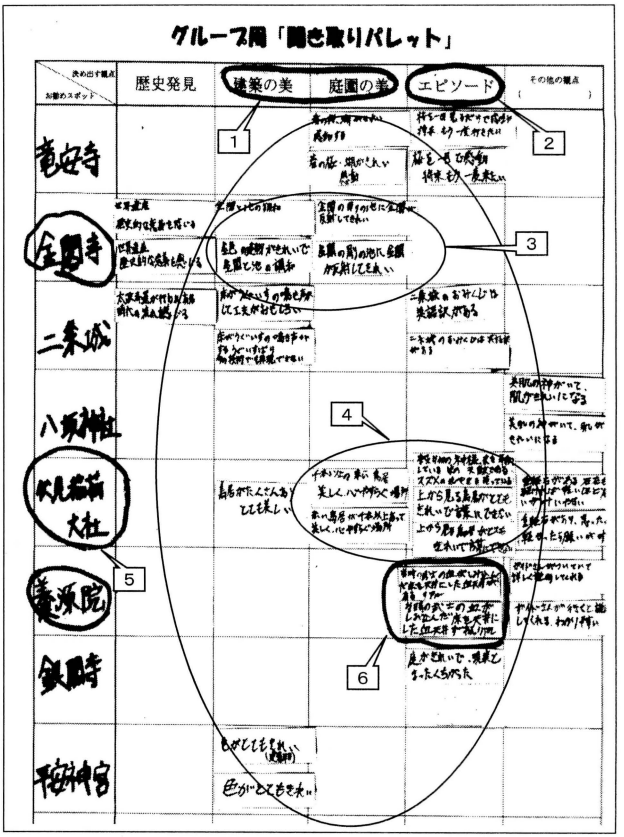

図7　K生のグループ用ワークシート

とができた姿であると考えられる。このことから,『決め出す観点』を基に意見交換を行い,『自分の考え』と友の考えを整理し直し,『お勧めスポット』を見返す活動を位置付けることは,互いの考えを比べながら話し合う力を高めるために有効であったと考えられる。

Ⅲ　新学習指導要領の「資質・能力」(三つの柱)を基にした本実践の分析

1「知識及び技能」の内容から分析した本実践の成果と課題

本実践を「知識及び技能」からとらえると,「(2) 情報の扱い方に関する事項」に当てはめて考えることができる。各学年の系統表からとらえると本実践は,3年生の事項「ア　情報との関係」の「具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること」と「イ　情報の整理」の「情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと」で考えていくことになる。「ア　情報の関係」においては,「お勧めスポット」を考えていく際に抽象的であった「お勧めスポット」を「決め出す観点」によって具体化し,互いの考えを話したり,聞いたりした活動が評価する部分に当てはまるのではないかと考える。また,系統的にとらえた場合,2年次の「根拠」「理由」「自分の考え」をはっきりさせたことも3年次に繋がる活動になっているととらえることもできるだろう。「イ　情報の整理」においては,「自分の考え」を観点別に分類すること,またそれをワークシートにまとめていく活動が評価する部分に当てはまるのではないかと考える。ただ,系統的に見たときに,本実践の場合は,第2学年の内容の方がふさわしいものになっており,さらに発展的な活動を考えていく必要があるだろう。さらに,「(2) 情報の扱い方に関する事項」全体でとらえた場合,本実践は,「話すこと・聞くこと」だけに当てはめたものであるため,新学習指導要領になっていく今後,「書くこと」や「読むこと」など他の指導事項にも生かしていくことができる活動や手だてを考えていくことが必要である。その一つとして,本実践における観点別に分類していく方法は,マトリクスの思考ツールとして,他の事項にも繋がっていく可能性を感じる。今後の実践を通し確認していきたいと考える。

2「思考力,判断力,表現力等」の内容から分析した本実践の成果と課題

「話すこと・聞くこと」の指導事項の内容の(1)は学習過程に沿って,

次のように構成されている。

○話題の設定，情報の収集，内容の検討

○構成の検討，考えの形成（話すこと）

○表現，共有（話すこと）

○構造と内容の把握，精査・解釈，考えの形成，共有（聞くこと）

○話し合いの進め方の検討，考えの形成，共有（話し合うこと）

このように，新学習指導要領では，学習過程が一層明確化された指導事項が位置付けられている。そこで，これらの指導事項に沿いながら本実践を分析する。

「話題の設定，情報の収集，内容の検討」の話題の設定については，「第２学年及び第３学年では，社会生活の中から集めること」となっている。本実践では，修学旅行の経験を生かし，２年生へ京都の「お勧めスポット」を紹介する単元を設定した。指導要領の文言にある「社会生活」というとらえがどういうものなのかという課題はあるが，学校生活やそこに関係する社会を社会生活ととらえれば，必要感がもてる話題の設定になっているのではないかと考える。また，「情報の収集及び内容の検討」の材料を集める観点として第３学年では，「多様な考えを想定しながら，伝え合う内容を検討する」と示されている。本実践においては，第１次から第４次までのＫ生の姿から評価していくことができる。具体的には，Ｋ生が，自分の「お勧めスポット」を「決め出す観点」によりワークシートへ分類していく姿や友の考えを分類していく姿が，友や２年生という相手に自分の考えをより明確に伝えられるように内容を検討していくことになるのではないだろうか。

「構成の検討，考えの形成（話すこと）」の第３学年では，「論理の展開などを考えて，話の構成を考えたり工夫したりすること」と示されている。このことは，本実践において，弱いところである。「決め出す観点」を用いて分類したからこそ，「自分の考え」を伝えやすくなり，友との意見交換はスムーズに進めることはできているが，構成や展開を考える時間を本実践の中では設定していなかった。話す相手や場ということ，話すことへの感心や意欲ということも関わってくることであるが，今後の実践に向け，考えていく必要がある。

「表現，共有（話すこと）」の第３学年では，場の状況に応じて言葉を

選ぶなどして，自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」と示されている。このことも，本実践において，弱いところである。「構成の検討，考えの形成（話すこと）」と同じように，「決め出す観点」を用いて分類したからこそ，「自分の考え」を伝えやすくなり，友との意見交換スムーズに進めることはできたが，場に応じた言葉や伝わりやすい表現を考える時間を本実践の中で設定することはなかった。今後の実践に向け，考えていく必要がある。

「構造と内容の把握，精査・解釈，考えの形成，共有（聞くこと）」の第３学年では，「話の展開を予測しながら，聞くこと」と示されている。また，「聞き取った内容や表現の仕方を評価して，自分の考えをまとめたり広げたり深めたりすること」も示されている。本実践においては，Ｋ生の第１次から第４次までの姿，本時の姿から評価していくことができる。具体的には，上記と重なるが，Ｋ生の自分の「お勧めスポット」を「決め出す観点」によりワークシートへ分類していく姿や友の考えを分類していくことが有効に働いているのではないかと考える。特に本時においては，分類しておいたからこそ友の考えを予測し，その内容や表現を評価しながら「自分の考え」に繋げていくことができたＫ生の姿があった。しかし，どのような姿を「広める」ととらえるのか，どのような姿を「深める」ととらえるのか，その視点が定まっていない本実践であった。今後の実践に向け，考えていく必要がある。

「話合いの進め方の検討，考えの形成，共有（話し合うこと）の第３学年では，「進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら，話し合うこと」と示されている。また，「考えを形成すること」について第３学年では「合意形成に向けて，考えをまとめたり広げたり深めたりすること」と示されている。この部分も，本実践においてどうとらえることができるかが曖昧な部分である。本実践は，結果的に「お勧めスポット」（自分の考え）を合意形成により決め出すことができたＫ生の姿があったととらえることもできる。これは，上記でも述べたように「話題の設定，情報の収集，内容の検討」における「話題設定の魅力」や「構造と内容の把握，精査・解釈，考えの形成，共有（聞くこと）」における「自分や友の考えをワークシートに分類していく活動」が有効に働いたからだと考える。しかし，言い方を変えると，「話題」や「聞くこと」に

大きく支えられて成り立った実践であったということになる。つまり，「話すこと」については，評価できる部分がとても薄くなってしまい，結果としては，話しているけれども，その力をどこで，どう付けたのかが不明確になってしまっている。今後の実践に向け，考慮していく必要がある。

Ⅳ　今後に向けて

今回，新学習指導要領に沿いつつ本実践を振り返って大きく二つの成果を得た。

１点目は「知識及び技能」に対する認識をさらに高める必要性である。これまでは「話すこと・聞くこと」「書くこと」などの領域ごとに考えられていた「知識及び技能」であったのに対して，新たな学習指導要領では「国語の力」として考えていかなければならないと位置付けられているからである。これは発達段階における系統性についても，より考察を深める必要があると言える。

２点目は「話すこと・聞くこと」の授業作りである。今回の振り返りでは，必要感がある話題の設定や「聞くこと」に対する手だてや活動の有効性が改めて見えてきた。しかし，同時に「話すこと」に対する見通しの甘さが浮き彫りとなった。新学習指導要領の「話すこと，聞くこと」の指導事項の扱いや関連については，

> ここに示す学習過程は指導の順序性を示すものではないため，アからオまでの指導事項を必ずしも順番に指導する必要はない。また，「話題の設定，情報の収集，内容の検討」に関する指導事項は，「話すこと」，「聞くこと」，「話し合うこと」に共通する指導事項である。なお，「Ａ話すこと・聞くこと」の学習は，話し手と聞き手との関わりの下で成立する学習であるため，「話すこと」，「聞くこと」，「話し合うこと」の各指導事項は相互に密接な関連がある。（**中学校学習指導要領国語編**）

と示されている。本実践を振り返ったときに，この指摘は今後の実践に向けて示唆を与えてくれる。本実践を振り返りながら強く感じることである。結果的にできたではなく，付けるべき力は何であるのかを，明確にした授業作りが必要であるのだろう。今後の実践での課題とすべき点が明確に定められた。

（かまくら　やまと　信州大学教育学部附属長野中学校）